



発行所
日本聖公会 東北教区
仙台市青葉区国分町2-13-15
TEL 022-223-2349
FAX 022-223-2387
URL <http://nssk-tohoku.com/>

現在、礼拝の休止に関しては、感染者数だけではなく各教会の地域の状況や、礼拝に出席されている皆さんの状況も考慮するようにお願いしていますので、2年前ほど頻繁に休止するということではなくなりました。しかし、礼拝後の茶話会や愛餐会等で食事を共にすることは、感染拡大が終息するまで休止していただくようお願いしています。

もちろん「聖餐における交わりにあずかる」ことや、「み言葉聞くことを通してキリストとの交わりにあずかる」とは、神様より賜うお恵みのうちに保たれています。しかし、礼拝後の「顔と顔を合せて」の、信徒同士の目に見える交わりということになると、とても気を遣っておら

かべてお祈りしていただきたいのです。と言いますのは、30年以上前に牧会していた教会で、日本キリスト教海外医療協力会からバングラデシユに派遣され、帰国されていた聖公会信徒のK・H医師の講演会を開いたことがあります。その講演の最後にK・H医師は、

「何枚ものバングラデシユの人々のスライドを見せてくださり、「この中のどなたかの顔を目に焼き付けてお祈りしてください」と言われました。出会ったことのない人でも、お顔を思い浮かべることです。祈りがより具体的になるということを、その時教えていただきました。」



「祈りの交わり」には制限がありません。どうぞ「祈りの交わり」のうちに、様々な困難にある方々を覚えていただければと思います。できればその方のお顔を思い浮かべてお祈りしていただきたいのです。

「どうぞ皆様方には、十分にご健康に留意され、主にある慰めと励ましが豊かにありますようにお祈りいたします。同時に一日も早い感染の収束と、入院・療養中の方々の回復、医療従事者・介護福祉施設職員の方々のお働きの上に、主の御導きと御護りをお祈りいたします。」

シリーズ「東北の信徒への手紙」
「祈りによる交わり」
——お顔を思い浮かべて——
主教 ヨハネ 吉田 雅人

2020年1月以降、新型コロナウイルス感染症に苦しむ方々が増え始めて以来、私たちの礼拝生活はもとより、学びと交わりの生活も大きな影響を受けてきました。それから約2年たった現在も感染拡大と減少を繰り返しており、東北六県も8月には約32万人を越える方々が罹患されました。9月に入って少し減少傾向にあります。まだまだ終息する気配は見えません。

このような状況の中で、私たちの信仰生活の大切な要素である「交わり(コイノニア)」が損なわれつつあると、多くの皆さんが感じておられるのではないかと心配しています。

このような状況の中で、私たちの信仰生活の大切な要素である「交わり(コイノニア)」が損なわれつつあると、多くの皆さんが感じておられるのではないかと心配しています。

7月の教役者会で「代禱の大切さ」ということが話題になりました。確かに「顔と顔を合せての交わり」は難しいところがありますが、「祈りの交わり」には制限がありません。どうぞ「祈りの交わり」のうちに、様々な困難にある方々を覚えていただければと思います。できればその方のお顔を思い浮かべてお祈りしていただきたいのです。

第15回ランベス会議報告 「ランベス会議に出席して」

日本聖公会首座主教 主教 ルカ 武藤 謙一



間2021年以降主教たちはオンラインで学びと分かち合いを続けてきました)、今年の開催となりました。

正確な参加者数は公表されていませんが、約650名の主教と450名の配偶者が参加しました。1998年には11名、2008年には18名だったという女性の主教は、今回は98名でした。

日本聖公会からは、笹森田鶴主教(北海道)、高橋宏幸主教(北関東管理・東京)、入江修主教(横浜)、西原廉太主教(中部)、西原美香子さん、小林尚明主教(神戸)、小林恵子さん、上原榮正主教(沖縄)、上原百子さん、武藤謙一主教(九州)、武藤和美さん、通訳としてポール・トルハースト司祭(神戸)、市原信太郎司祭(中部)の13名が出席しました。

ランベス会議のためにお支えくださりお祈りくださった皆さまに心から感謝申し上げます。

礼拝

ランベス会議のチャプレン団がすべての礼拝を監修し、

また会場内にはチャペルが設けられており、いつでも静かに黙想や祈りができるように配慮され、また参加者は少ないですが6時30分から朝の祈り、21時30分から夜の祈りが献げられていました。

2日・3日目の主教たちのリトリートでの聖餐式、開会礼拝、閉会礼拝の聖餐式はカクタベリー大聖堂で行われました。また期間中4日目から10日目まで主日を除いて行われた聖餐式、夕の祈りは管区ごとに司式を担当し、その国の言語で詩編が唱えられ聖書が読まれ、その後5分程度のその管区の働きを紹介するビデオが上映され多様な働きを知る機会となりました。礼拝音楽についても礼拝音楽に造詣の深い司祭たちが中心となった音楽チーム、またカクタベリー大聖堂クワイヤーなどが奉仕してくださいました。

8月6日は広島原爆記念日でしたので、チャプレン団に代祷で広島、長崎の原爆犠牲者のため、また核兵器廃絶のため祈ってほしい旨申し入れ、当日の朝の聖餐式、夕の祈りの代祷に加えられました。ま

た当日の全体会議の冒頭、カクタベリー大主教は広島、長崎の犠牲者を覚えて2分間の黙祷を呼び掛け参加者全員で黙祷がささげられました。

聖書の学び

今回のランベス会議に選ばれたのはペトロの手紙Iです。主教たちは2日間のリトリートで5回に分けて講話を聞き黙想するように促されました。また期間中は主日とランベス宮殿訪問日を除き、1日のプログラムは聖書の学びと分かち合いから始まり、カクタベリー大主教の講話の後、6人〜7人の小グループに分かれ、用意された設問をもとに分かち合う時間もたれました。この小グループは期間中同じメンバーであり、ランベスコールについてもこのグループごとに話し合いがなされました。

カクタベリー大主教は、この手紙が小アジアの各地にいる寄留の民となり、迫害を受け困難の中にある信徒に送られたものであり、現代社会のなかで多様な課題を負いながら生きるキリスト者にとって



示唆に富んだ書物であるとして今回の会議のテキストに選んだことを強調していました。

全体会議、ランベス・コール(ランベスからの呼びかけ)

今回のランベス会議のテーマは「神の世界のための神の教会」(God's Church for God's World)です。このテーマのもとに、全体会議では、①「宣教と伝道」、②「和解」、③「セーフ・チャーチ」、④「聖公会のアイデンティティ」、⑤「和解」、⑥「環境と持続可能な開発」、⑦「キリスト者の一致」、⑧「ホスピタリティと

寛容さ(他宗教間関係)」、⑨「弟子であること」をテーマにそれぞれの担当者たち(主に各ランベス・コールの起草委員の方々)が発題されました。

それぞれの発題を聞いた後に、「ランベス・コール」(ランベスからの呼びかけ)の文章が起草委員会より提示され、小グループごとに意見を述べ合い、その場では幾つかのグループの意見を聞き、最終的には各グループの意見を委員会に提出しています。ランベス・コールとして提案され、検討されたテーマは、①「宣教と福音伝道」、②「セーフ・チャーチ」、③「聖公会のアイデンティティ」、④「和解」、⑤「人間の尊厳」、⑥「キリスト者の一致(エキュメニカルな関係)」、⑦「宗教間関係」、⑧「環境と持続可能な開発」、⑨「弟子であること」、⑩「科学と信仰」です。西原廉太主教はランベス・コール「科学と信仰」の起草委員の一人であり、8月6日に「科学と信仰」について記者会見に出席し、広島原爆記念日であること、唯一の被爆国また東京電

力福島第一原子力発電所事故による被曝国として、核のない世界を求める日本聖公会の立場を説明し、オンラインで参加している記者からも質問があり注目を集めました。

今回のランベス・コールで最も注目されたのが「人間の尊厳」に関するものでした。直前にランベス会議事務局から共有された原案では「1998年ランベス会議の決議1・10」(男女の結婚が正統な結婚であるとする決議)以外の立場を認めないという内容になっていたことに対して、アメリカ、カナダの主教たち、さらにウェールズの主教会からも懸念の声明が出され、一部、起草委員からも起草委員会原案にはこのような表現はなかったとの指摘もあり、結局、修正案が再提出されました。また同性婚に

反対の立場の主教たちも別の決議の提案を準備していたようです。「人間の尊厳」が協議される前に、カナタベリー大主教は、1998年ランベス会議の決議1・10が今でも有効であると認めつつ、同時に複数の管区においては神学的考察と受容のプロセスを経て同性婚を認めていること、またこの課題を巡って対立があることを明らかにし、この

コールについては賛否を問わず、今後も議論を継続していくと説明し、この課題については賛否を問うことをしませんでした。今回ナイジェリア、ウガンダ、ルワンダの主教たちが参加しなかったのもこのことが理由と聞いています。また同性愛を公言している主教たちが参加していることに抗議し、陪餐を拒否する主教や配偶者たちもおり、そのこ

カン・コミュニティオンは、それぞれの課題に取り組みを通して神の愛をこの世に示していくこと、また多様性を尊重しながら、神の世界のための神の教会として共に歩み出そうと語られました。

オプションの

セミナー・プログラム

期間中3回のオプションのセミナーが用意され、また夜には多様なプログラムが準備されていました。小林尚明主教は「御国が来ますように『Thy Kingdom Come』セミナーで、発題者の1人として日本聖公会の取り組みを報告されました。また「セーフ・チャーチ」については全体会議のテーマの一つでしたが、セミナーとしても3回用意されておりその重要性を感じました。ロンドン在住の日本人への伝道活動で用いられているフレッシュ・エクस्प्रेस・セッションについて、日本の参加者たちに紹介するプログラムもあり感謝でした。女性の主教たちの夕食会では笹森田鶴主教がスピーチし、参加した主教たちに大きな感動を与

えたと伺っています。笹森田鶴主教は最後の全体会議でカナタベリー大主教のインタビュに答える4名の一人にも選ばれましたが、東アジアで最初の女性の主教として参加者たちの注目を集め、今回のランベス会議のヒロイン的な存在でした。

言語について

主会場とカナタベリー大聖堂ではフランス語、スペイン語、ポルトガル語、日本語、韓国語、スワヒリ語、ジュバ・アラビア語、ビルマ語に同時通訳され、全体会議、基調講演、聖書の学び、聖餐式、夕の祈りは各言語で聞くことができました。また会議資料、礼拝式文も各言語に翻訳されたものが用意されていました。日本語についてはポール(神戸)と市原信太郎司祭(中部)の他に4人のプロの通訳者があり、グループでの協議にも奉仕くださいました。また英国聖公会信徒の友紀・ジョンソンさんもいろいろな場面で献身的にサポートしてくださ



とに心を痛めた主教たちも少なくありませんでした。こうした現実も踏まえて、カナタベリー大主教は、最後の講演で、宣教の5指標に言及し、アングリ

乏しい者もあまりストレス感

じることなく参加することが
できました。

終わりに

今回初めてランベス会議に
出席しましたが、アングリカ
ン・コミュニティオンの多様性、
豊かさを実感し、国や言葉、
文化など違いはあっても共に

祈り、聖書を学び、食事をし、
分かち合う家族であることを
強く感じました。特にチャペ
ルやカンタベリー大聖堂の地
下聖堂で静かに祈り黙想する
主教たちの姿に励まされまし
た。アングリカン・コミュニ
オンはセクシヤリティを巡っ
て根深い対立もありますが、



それでもなお粘り強く対話を
重ね、神の世界に仕える教会、
神の家族として共に歩もうと
しています。日本聖公会は小
さな管区ですが、世界の家族
の一員として日本での宣教・
伝道に励む思いを新たにしま
した。

今後、「ランベスからの呼び
かけ」の正式な文書が届くこ
とでしよう。世界の聖公会が
取り組もうとする宣教課題と
して受け止め、日本聖公会と
してさまざまなレベルで分か
ち合いたいと考えています。

(日本聖公会管区事務所だよ
り第378号へ2022年9
月号より転載)

10月23日(日)は「社会事業の
日」です。社会事業の働きを
覚えて祈り、献金をお献げく
ださい。

洗礼おめでとつ

サムエル 上田 悠人
(8月13日・盛岡)

永遠の平安

アイリーン 高橋 エリン
(8月7日・盛岡)

8月6日開催

「2022年平和の祈り」報告

弘前昇天教会 イシドールス 中沼 通浩

8月6日、十和田湖畔にあ
る鉛山聖救主礼拝堂で今年も
「平和の祈り」が献げられま
した。広島に原爆が投下され
てから77年目の原爆の日です。

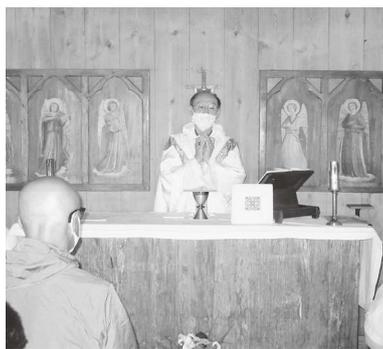
今年にはコロナウイルス感染
症の急激な感染拡大により、
参加者が限定され、ヴァイア
ル山荘で予定されていた平和
コンサートが中止になってし
まいました。さらに、数日前
の記録的な大雨のために十和
田湖への道路が一時通行止め
になるなど、開催が心配され
た中での「平和の祈り」でし
た。それでも、仙台・盛岡・
八戸・青森・弘前・大館から
合計20名が参加しました。

午前11時から礼拝堂の掃除
と礼拝の準備をしましたが、
今年も青森の木村俊昭さんが
発電機を準備してくださり、
照明と音響機器などを使うこ
とができました。木村さんの
ご厚意に感謝です。

正午からの礼拝は、ヨハネ
吉田雅人主教の司式、テモテ

遠藤洋介司祭の補式で執り行
われましたが、十和田湖も私
たちと一緒に平和を祈ってい
るような穏やかな湖面が印象
的でした。

今年には、ロシアによるウク
ライナ侵攻があり、また、台
湾海峡をめぐる中国とアメリ



カの対立など、世界各地では
人々の平和を脅かすできごと
が絶えません。時代が進み、
アナログからデジタルへ文明
がいくら進化しても平和への
道のりが益々遠くなるばかり
です。それは、人間だけが進
歩していかないということでは
ないのでしょいか。

常置委員会報告

(第10回・8月18日)

◇常置委員長報告

7月30日「常置委員会主催
報告会」について報告。

◇協議事項

(1) 聖公会生野センター設立
30周年記念感謝礼拝につい
て：出席者は常置委員長と
し、教区から祝金を持参す
る。

(2) 教区諸規程改正につい
て：業務組織及び業務分掌
規程改正について、改正案
を承認することを規則・規
程グループに答申。

(3) 次期主教選挙を行うかど
うかの意見集約への道程に
関する件：常置委員会主催
報告会で提示したものを文
書化し、東日本宣教協働区
協働委員に送付することを
承認。

(4) 主教選挙実施に向けた準
備について：第106(臨
時)教区会を11月3日(木・
祝)に仙台基督教会にて開
催。公示日を8月31日(水)
とし、教区主教候補者推薦
管理委員の設置と、委員3
名の任命を承認。



日本聖公会宣教協議会実行委員会です。今回は、宣教協議会のテーマと主題聖句についてまた、「ぶどうの枝協議会」(8月22(月)～23日(火))について報告させていただきます。
・2023年日本聖公会宣教協議会テーマ、主題聖句について

「テーマ」「いのち、尊厳限り
ないもの」となりびとになる
ために」
「主題聖句」ヨハネによる福音書15章5節
「私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。人が私
につながっており、私もその
人につながっていれば、その
人は豊かに実を結ぶ。私を離
れては、あなたがたは何もで
きないからである。」(聖書協
会共同訳)

「ぶどうの木」であるイエス様を通じて、「となりびと」にな
りたいこととして「となりび
と」というキーワードをサブ
テーマとしました。これは、
イエス様が「サムリア人のた
とえ」で、「あなたの都合では
なく、あなたが、出会わされ
た人のとなりびと」になるこ
とを求められました。「あなた
が誰かの『となりびと』にな
ること」、それは、「相手の人
が、あなたの『となりびと』
になること」でもあります。
本協議会では、「あなたは誰の
となりびとになりますか」と
いう問いかけを深めていきま
いと思います。

す。
「ぶどうの枝協議会」(拡大
実行委員会)について
8月22日(月)～23日(火)イ
ンマヌエル新生教会(東京教
区)を会場に、武藤首座主教、
各教区の宣教担当、管区の各
諸委員の代表、矢萩総主事、
卓宣教主事、実行委員によっ
て開催されました。プログ
ラムは、22日(月)開会礼拝(聖
餐式)を献げ、儀主教(実行
委員長)が説教をされました。
礼拝に引き続き「ランベス会
議報告」(西原主教)と実行
委員による「宣教協議会実行
委員会のこれまでの歩み」の
発題から始まりました。その
後、グループに分かれて分か
ち合いを行いました。午後は、
「原発問題について」原発問
題プロジェクト長の長谷川清
純司祭より発題、そして会場
をお借りしたインマヌエル新
生教会の誕生に関わるそれぞ
れの思いを牧師の卓司祭の司
会によって3人の信徒方から
お話を伺うことが出来ました。
その後、グループの分かち合
い、全体の分かち合いを続け、
来年の宣教協議会のプログラ
ムの内容について協議いたし

ました。短い日程ではありま
したが、たくさん具体的な
アイデアが出され、協議会に
向けてたくさん「ぶどうの
実」を頂き有意義な時でした。

この拡大実行委員会に、東
北教区から吉田雅人主教(礼
拝委員会・祈祷書検査委員)、
長谷川清純司祭(原発問題プ
ロジェクトリーダー)、赤坂
聖矢さん(宣教協議会実行委
員)、越山哲也司祭(教区宣
教担当・実行委員)の4名が
出席しました。宣教協議会に
向けて皆さん一人ひとりが関
心を持ってくださるよう
に、これからも情報を発信して
いきたいと思ひます。

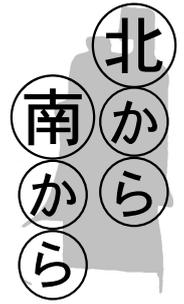
(教区宣教担当
司祭 越山 哲也)



東日本大震災被災者
支援プロジェクト報告

◆8月地域活動状況 「お買
い物支援バス」(名取市) 3
回行われ延べ19名が利用。「水
曜喫茶」(新地町) 8月10日
開催、9名参加。「広畑お茶会」
(新地町) 8月はお休み。9
月30日(金)開催で第100回
になります。

◆次回定期主教会は、東北を
会場に10月4日～6日開かれ
ます。5日午後の半日、主教
会一行は福島県内をフィール
ドトリップします。2011
年3月12日に1号機、14日3
号機、15日4号機がそれぞれ
水素爆発し、膨大な量の放射
性物質が拡散して11年半が経
過した原発爆発事故現場を肌
で感じ取りたいという強い主
教会の意向と理解しています。
当日は、車輛を提供しメン
バーがガイドの奉仕をして、
震災遺構浪江町立請戸小学校
を見学し、希望の牧場を経由
し、約1600ヘクタールに
及ぶ放射性廃棄物の中間貯蔵
地域を、せめてその周辺から
でも目撃できたらと思ひ、行
程をコーディネートしました。
(司祭 長谷川 清純)



青森聖アンデレ教会

7月3日、交換説教で仙台から八木正言司祭様が来られ、司式説教をしてくださいました。礼拝後、八木司祭様は教区展望会議メンバー3名とで、パワーポイントを使ってこれからの教会宣教の方向性について熱く語られました。教会に新しい方が飛び込んで来られるイメージ・状況を作るために、どんどんアイデアを出して教会を身近に感じられる

ようにしましょう、というお話に共感しました。

西の平聖パウロミッシヨン

長らく懸案事項となっていた当伝道所の閉所について、8月20日八木司祭を交えて話し合いました。

66年前に家庭集会から始まり、教会独立の機運を何度も高めながら、伝道所であり続けた歴史を振り返りつつ、閉所はさびしいことではあるが、今後、この地がより良い形で活用されることを願って閉所への道を歩いていくことを再確認しました。すべては神の御心のままに。

大館聖パウロ教会

近年、線状降水帯という言葉が多く聞かれます。8月東北北部は長雨に続き豪雨が追いつ追われ、大きな被害がありました。災害地の早い復旧が望まれます。

8月20日十和田ヴァイアル山荘で盛岡聖公会の皆さんと聖餐式を献げ、自然の恵みに包まれて楽しいひとときを過ごしました。幼稚園、牧師館の解体が始まり、子どもたちは仮園舎で2学期スタート。皆さんのお祈りに支えられ、元気に遊んでいます。

小名浜聖テモテ教会

7月31日主教様の巡回日に、テレサ田野入亜紀子さんが堅信を受けられました。

当教会にとつて20余年振りの堅信の恵みは大きな喜びです。越山健蔵司祭から洗礼をしていただき、松本正俊司祭が定住してくださって、祈りの大切さを常にご指導くださっていることがこの喜びに表れています。息子のサムエル飛鳥さんは、主教様のお心遣いで12月18日に再度巡回くださって堅信を受けられる予定です。主に感謝

公 示

日本聖公会東北教区第106(臨時)教区会を下記のように招集します。

救主降生2022年8月31日
日本聖公会東北教区
教区会議長
主教 ヨハネ 吉田 雅人^印
記

日時 2022年11月3日(木)
午後1時から午後5時まで
場所 日本聖公会東北教区主教座聖堂
仙台基督教会礼拝堂
仙台市青葉区国分町二丁目13-15
議題 東北教区主教選挙

「日本聖公会主教選挙規則」第5条の定めにより、主教選挙候補者推薦管理委員を置き、委員を下記のように任命します。
司祭 李賛熙・赤坂有司・浅原和裕
書記局を下記のように指名します。
書記長 司祭 林国秀・書記 司祭 渡部拓
以上

公 示

日本聖公会東北教区第107(定期)教区会を下記のように招集します。

救主降生2022年9月1日
日本聖公会東北教区
教区会議長
主教 ヨハネ 吉田 雅人^印
記

日時 2022年11月23日(水)
午前9時から午後5時まで
場所 盛岡聖公会礼拝堂
盛岡市中央通3-14-14
アートホテル盛岡
盛岡市大通3-3-18

書記局を下記のように指名します。
書記長 司祭 林国秀・書記 司祭 越山哲也
以上

10月逝去者記念聖餐式

10月4日(火) 午前10時

於 主教座聖堂
司式・説教 吉田雅人主教

司祭 駒野義夫

1946年10月5日逝去

司祭 William Franklin Draper

1999年10月9日逝去

執事 ヨセフ 山本清司

2003年10月9日逝去

宣教師 Miss Gladys Gertrude Spencer

1960年10月11日逝去

司祭 ポーロ 滝口三郎

1976年10月12日逝去

伝道師 度会伝吉

1928年10月15日逝去

伝道師 吉津愛一郎

1976年10月18日逝去

司祭 宅間六郎

1955年10月23日逝去

宣教師 Miss Bessie Mead

1954年10月25日逝去

司祭 ステバノ 木村兵二

1968年10月25日逝去

司祭 F.C.Meredith

1926年10月27日逝去

伝道師 蛸崎佐久

1904年10月29日逝去

